

【報道関係各位】

2025年4月30日
一般財団法人 日本気象協会

2025年桜開花・満開予想（第11回） 桜前線は旭川まで到達 道北・道東では5月上旬に開花する所が多い

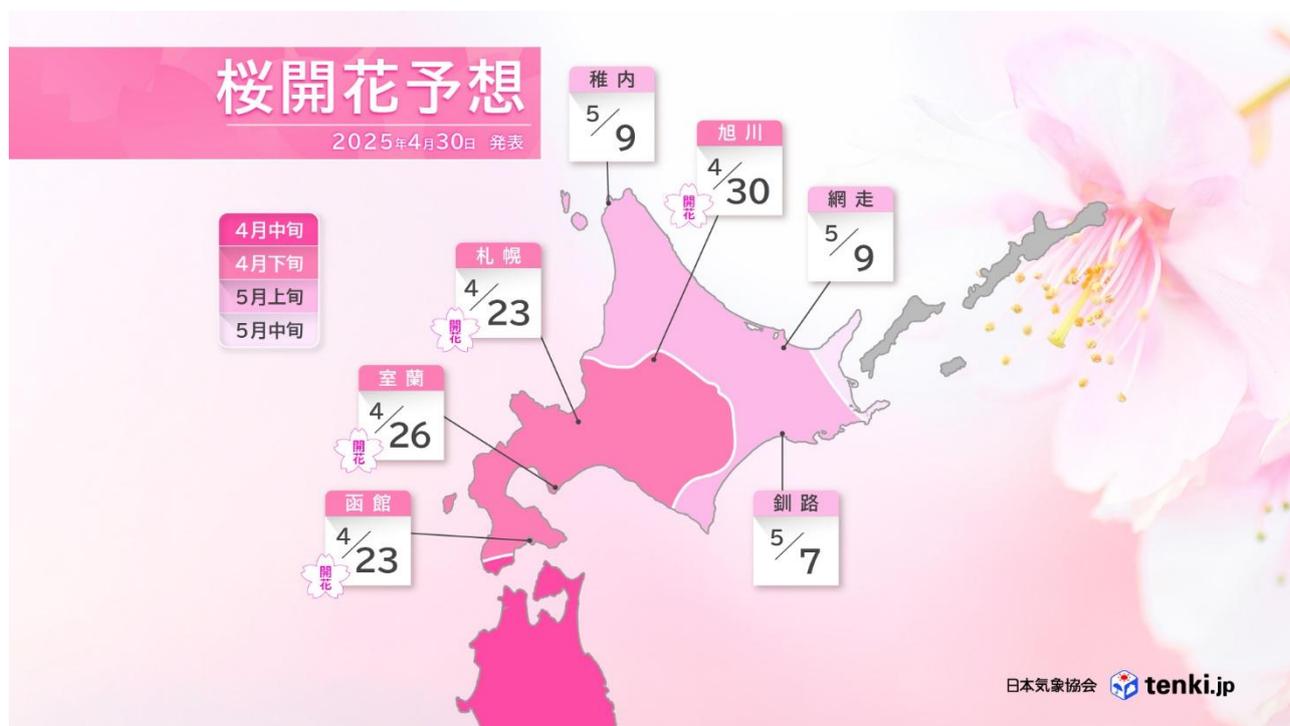
一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、日本全国84地点の桜の開花・満開予想（第11回）を、2025年4月30日（水）に発表します。
なお今年の桜開花・満開予想は今回が最終報となります。

◆2025年桜開花・満開予想（第11回）のポイント

- ・北海道の開花と満開は平年より早く、かなり早い所も多い。
- ・今春の開花・満開は全国的に平年並みのところが多かったが、北日本では平年より早いところが多くなった。

この先、予想日の変更があった場合は随時、天気予報専門メディア『tenki.jp（てんきじえーびー）』桜の開花予想ページ（<https://tenki.jp/sakura/expectation/>）にてお知らせします。桜開花・満開の最新の予想情報は『tenki.jp』にて確認ください。

開花予想前線図





開花と満開の傾向

桜開花前線は現在、北海道を北上しています。4月26日に室蘭、28日には帯広、きょう30日には旭川でも開花し、残すは道北・道東の地点がメインとなりました。

また、23日に開花した札幌、26日に開花した室蘭はいずれも平年より8日早い開花となり、北海道の開花は他地域と比べ、平年より早い傾向が強くなっています。

この先北海道では、平年より5日ほど早く開花・満開となるところが多く、釧路では5月7日に開花し、3日後の10日に満開、稚内では9日に開花した後、13日に満開となるでしょう。

今春の開花の振り返り

4月30日12時現在、予想対象の84地点※¹中、78地点で開花となりました。

今年のこれまでの開花78地点のうち、平年並みの開花となった地点が45地点、平年よりかなり早いまたは早い開花となった地点が25地点、平年よりかなり遅いまたは遅い開花となった地点が6地点となり※²、全体を通して平年並みかやや早い開花となりました。

なお一昨年(2023年)、観測史上最早の開花となった地点が相次ぎましたが、今春は最早開花となった地点はありませんでした。

※¹ 日本気象協会の独自地点を含みます

※² 「並」「早い」「遅い」の地点数合計が78にならないのは、平年値として一定期間以上の観測データが揃わない2地点を除いたため。

【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。1 月、2 月中は開花予想日のみを発表し、3 月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第 1 回 1 月 29 日(水)	第 2 回 2 月 26 日(水)	第 3 回 3 月 5 日(水)	第 4 回 3 月 12 日(水)
第 5 回 3 月 19 日(水)	第 6 回 3 月 26 日(水)	第 7 回 4 月 2 日(水)	第 8 回 4 月 9 日(水)
第 9 回 4 月 16 日(水)	第 10 回 4 月 23 日(水)	第 11 回 4 月 30 日(水)	

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で 5～6 輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で 80% 以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 1 月は 49 地点、2 月は 53 地点、3 月以降は全国で約 80 地点の予想を発表します。予想地点は、各地気象台が観測する標本木 53 地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる約 30 地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。
日本気象協会は 2007 年から桜の開花予想を実施しており、今年で 19 年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。